

# 「香ビジネスの促進に向けた調査・分析」の検討状況

（香イノベーション専門部会）

---

令和元年度森林資源を活用した  
新たな山村活性化に向けた調査検討事業

# 1 事業の背景

- ① 現在流通しているアロマオイル(精油)の原料は、欧州等から輸入された植物精油が大半(国産植物精油のシェアは約6%)。
- ② 我が国の山村地域には、スギ、ヒノキやクロモジ等の未利用資源があり、精油の原料となる可能性大。林業関係者の所得向上や地域の雇用増加が期待。
- ③ 現在、これらから精油を採取・利用する動きが国内各地で見られるが、大多数は小規模分散。
- ④ 製品のポテンシャルはあってもユーザーの認知度が低く、生産者を含めた業界体制が整備されていない状況。
- ⑤ 今後、産業として成長させていくためには、国産植物精油の品質確保に向けた仕組みの整備とともに、生産から販売までの関係者のネットワーク化に向けた体制整備が必要。

## 2 事業方針・実施内容

### 【事業方針】

国産植物精油業の成長産業化に向け、国内外の香ビジネスの現状、生産者側の品質確保に関する取組の方向性、国産植物精油業界の連携や生産者・消費者等を繋ぐためのオープンプラットフォームの構築等について以下を実施。

### 【実施内容】

- (1) 国内外におけるアロマオイル事情(品質含む)の調査・整理
- (2) 我が国におけるアロマオイルの生産流通実態及びニーズ、嗜好等の調査・整理
- (3) 国産植物精油の以下の効用や機能性、活用方法の調査・整理
  - ・医学的効用(予防医学含む)
  - ・アロマセラピーとしての活用
  - ・食品、化粧品等への活用
- (4) 各地域の生産者が一定の品質を確保するための、業界認証制度やトレーサビリティ等の必要性及び導入手法の検討
- (5) 生産者と消費者が集う意見交換会の開催

# (1) 国内外におけるアロマオイル事情(品質含む)の調査・整理

## 【内容】

- ・国内外の植物精油の生産、流通、歴史文化等について、文献や統計資料等により調査・整理する。

## 【調査項目】

- ・海外主要国における精油の生産量やコスト、歴史的な背景等
- ・国内における海外産精油の消費・流通の実態、歴史的な背景等
- ・国内外の精油生産者の労働条件や労働環境等
- ・国産精油と海外産精油の品質
- ・国産天然精油の使用分野の実態

## 【実施方法】

- ・研究論文、専門誌、統計資料等の調査

## (2) 我が国におけるアロマオイルの生産流通実態及びニーズ、嗜好等の調査・整理

### 【内容】

- ・国内のアロマセラピー関係者における植物精油の使用状況(国内産・海外産)について、国内アロマセラピー団体等に対して調査を実施し、整理する。

### 【調査項目】

- ・主要なアロマセラピー団体の現状(団体数、会員数、活動内容等)
- ・アロマセラピー関係者を対象にした使用状況や香りの嗜好性

### 【実施方法】

- ・主要団体のHP、会報誌、団体が実施した過去のアンケート等の調査
- ・研究論文、専門誌、統計資料等の調査
- ・主要団体、サロン、意見交換会の場等における精油の使用状況や香りの嗜好性に関するアンケート調査
- ・アロマセラピー関係者へのヒアリング

### (3) 国産植物精油の効用や機能性、活用方法の調査・整理

#### 【内容】

- ・医学的効用、アロマセラピーとしての活用、食品・化粧品等への活用等の国産植物精油の効用や機能性に関する情報を収集しまとめる。

#### 【調査項目】

- ・国産植物精油の予防医学を含めた医学的効用についてのエビデンス
- ・国産植物精油の効果を活用した食品・化粧品等への利用方法

#### 【実施方法】

- ・研究論文、専門誌等の調査
- ・国産精油を使用しているアロマセラピスト等のアロマセラピー関係者へのアンケート調査
- ・研究者やアロマセラピー関係者へのヒアリング
- ・主要団体が実施した過去のアンケート等の調査

## (4) 各地域の生産者が一定の品質を確保するための、業界認証制度やトレーサビリティ等の必要性及び導入手法の検討

### 【内容】

- ・業界認証制度やトレーサビリティ等の必要性等を検討するために、生産現場において原料植物の採取(栽培)や精油の生産(抽出)等の実態を調査し、課題を把握する。

### 【調査項目】

- ・原料調達方法、精油製造方法
- ・精油の管理体制
- ・製造コスト
- ・原料調達、精油製造等における諸課題
- ・森林由来の新たな原料による国産植物精油の可能性 等

### 【実施方法】

- ・現地調査、生産者へのアンケート調査、専門家へのヒアリング等

## (5) 生産者と消費者が集う意見交換会の開催

### 【内容】

- ・国産精油生産者と消費者、研究者等が集い、国産植物精油による香ビジネスの進展に向けた意見交換の場を設け、気運の醸成を図る。

### 【主なテーマ】

- ・国内における海外産精油の消費・流通の実態
- ・国産植物精油の現状
- ・国産植物精油の機能性
- ・国産植物精油の可能性
- ・消費者への普及状況 等

### 【実施方法】

- ・意見交換会の開催

## (5) 生産者と消費者が集う意見交換会(実施結果:京都会場)

### 【概要】

- ・10月3日(木)、キャンパスプラザ京都にて、約60名が参加して開催
- ・植物が持つ「コミュニケーション能力」等について意見交換を行った



- ・日本のアロマの現状について  
(一社)日本産天然精油連絡協議会 稲本正専務理事  
(株)K・Kファーム 村山寛氏

- ・植物間のコミュニケーションについて  
京都大学 高林純示氏

- ・パネルディスカッション「日本産エッセンシャルオイル(植物精油)の可能性を探る！」  
(パネラー:高林氏、村山氏、稲本氏)

(株)K・Kファームの村山氏からは、環境保護に配慮した精油生産の取組み等について、京都大学の高林氏からは、植物と昆虫の間で香りを介したコミュニケーションを行なっている研究についてお話いただいた。

また、生態系の複雑さを知ることで、新しいアロマの可能性が広がること等について、パネルディスカッションが行われた。



## (5) 生産者と消費者が集う意見交換会(実施結果:仙台会場)

### 【概要】

- ・10月15日(火)、せんだいメディアテークにて、約30名が参加して開催
- ・福祉現場における植物精油の活用等について意見交換を行った



- ・日本のアロマの現状について  
(一社)日本産天然精油連絡協議会 稲本正専務理事  
ラピラス電機(株) 福勢慶昭氏

- ・福祉現場で役立つ日本産植物精油  
(一社)地域福祉アロマケアラー協会 佐藤智子氏

- ・パネルディスカッション「日本産エッセンシャルオイル(植物精油)の新たな可能性を探る！」  
(パネラー:佐藤氏、福勢氏、稲本氏)



ラピラス電機(株)の福勢氏からは、北東北の資源を活かすために精油生産を行なっていることについて、佐藤氏からは福祉現場で日本産精油が活用されていることについてお話いただいた。

また、香りの嗜好性の教育やアロマが男性市場を開拓できる可能性等について、パネルディスカッションが行われた。

## (5) 生産者と消費者が集う意見交換会(実施結果:那覇会場)

### 【概要】

- ・10月21日(月)、沖縄県教職員共済会館八汐荘にて、約40名が参加して開催
- ・沖縄で生産されている植物精油等について意見交換を行った



- ・日本のアロマの現状について  
(一社)日本産天然精油連絡協議会 稲本正専務理事  
香りと場研究所 菌田優子氏
- ・亜熱帯気候を活用した琉球大学ブランド精油の研究と開発  
琉球大学 研究推進機構 研究企画室 殿岡氏
- ・パネルディスカッション「日本産エッセンシャルオイル(植物精油)の可能性を探る！」  
(パネラー:殿岡氏、菌田氏、日本月桃(株)碓井氏)



香りと場研究所の菌田氏からは、リュウキュウマツ等の植物精油の開発を行なっていることについて、琉球大学の殿岡氏からは、地元企業と協力して琉球大学ブランドの精油開発を行っている話を伺った。また、亜熱帯気候の沖縄だからこそ新しい精油が生まれる可能性があること等について、パネルディスカッションが行われた。

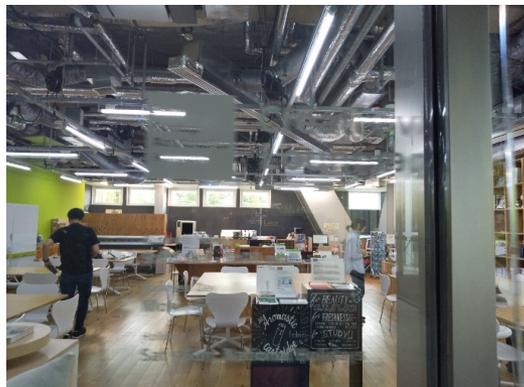
## (5) 生産者と消費者が集う意見交換会(実施予定:東京会場)

### 【概要】

日時: 12月5日(木) 13:00 ~ 15:30

場所: ソニー(株) クリエイティブラウンジ(東京都港区)

定員: 70名(無料)



### 【講演】

- 1 「人間の心理とアロマの関わり」  
東北大学 坂井信之氏

### 【事例紹介】

- 2 「社内コミュニケーションや福利厚生としての日本産アロマの活用」  
FSX(株)

- 3 「JR東日本ラグビー部をはじめとする日本産アロマのアスリートケア」  
小林摩希氏(アロマセラピスト)

### 【意見交換】

- 4 研究者、生産者、消費者によるパネルディスカッション